

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400155		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームびあ出石		
所在地	兵庫県豊岡市出石町福住317		
自己評価作成日	平成29年2月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の状態(身体、心理、認知症のレベル)に即した個別ケアプログラムの実施。手作り料理。カレンダーづくり。全体的な雰囲気
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県内有数の城下町に立地し、利用者は馴染みの民家で自宅と同じように過ごしている。各々が、自分の生活スタイルやペースで居心地良くつろぎ、職員はそんな利用者を温かく見守っている。利用者の思いがけない行動や言動にも慌てず、さりげない声かけや対応を行うなど、個々の特性を尊重し、じっくり待つ姿勢に努めている。利用者同士も自然に助け合い互いに気づかう場面も見られるなど、その人なりの役割が活かされている。少人数ならではの素朴な手作りの家庭料理を職員も一緒に楽しみ、時には利用者も共に掃除や洗濯などの家事に精を出すなど、家庭的なぬくもりが感じられる。職員の笑顔が利用者の笑顔を導き、その笑顔によって、より一層職員の意欲も高まっているのではないだろうか。個別プログラムをより充実させ、その人らしい暮らしを実現されることをますます期待したい。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	① 昨年よりできている ② 職員の交代などにより理念などに関心を持つ職員が少し増えたから	先ず、入職時に理念の説明を通じて、利用者への個別ケアの重要性を伝えている。さらに利用者の個別ケアを通して、グループホームの目的についても周知を図っている。今回の自己評価が理念を振り返る機会ともなった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①実施している。②支え愛の利用者をホームに招いたり、ホームの利用者が支え愛に参加したり、地域の高齢者がボランティアで花を植えたりしている	地域の季節行事等への参加は最近少なくなってきたが、子ども会の行事には参加している。恒例になっているボランティアとの交流は継続しており、馴染みの関係になってきている。主催の夏まつりを通じて地域との相互交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①できていない ②職員体制などからそのような余裕がない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①実施している ② ホームの課題に関してアイデアや地域の情報などを提供してもらっている	地域代表者、利用者、家族、地域包括、市職員、社協が出席している。災害等の避難体制についてや地域との協力体制、地域との交流推進等について、各立場からの積極的な意見交換となっている。グループホームの働きも含め、認識を深める場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①ほとんどできていない ②連携がない	必要に応じた事務連絡に留まり、何かあれば相談できる関係性はある。2ヶ月毎のグループホーム連絡会を通じて、他事業所間の情報交換を図っている。今後も関係性を深めるよう努めていく考えである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	① 実施している	今年度は、特に研修は実施していない。利用者個別のケア方法を検討する中で、不適切なケアにならないようその都度検討し、反映させている。基本、拘束はしない方針とし、職員には周知を図っている。夜間のみ玄関は施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	① 学習会などを通して周知している	普段から、利用者への声かけには注意し、特に事故発生の際には、職員間で振り返り再度ケア方法を見直した。命令、威圧的な口調にならないよう繰り返し注意喚起し、意識定着に努めている。そのためにも職員自身の目標達成を促し、個別面談を通してメンタルケアに努めている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①入居者に成年後見制度を利用している方がいるので職員は実体験として少しは学習できている	具体事例を通して、職員は身近に学ぶ機会がある。大まかな制度内容の理解はできており、管理者は、必要に応じて情報提供を行い、啓発の必要性を認識している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①実施している	家族のみの見学が多い。家族から出される不安として、重度化や看取りについてよく挙がり、事業所の方針を伝えている。併せて家族の協力が不可欠であることもお願いしている。その時点での利用者、家族の意向を聞き、安心して利用できるよう心がけている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①介護相談員が派遣されてきており、相談員からの情報や意見を反映させている	定期的な介護相談員の訪問により、利用者の様子や意向を参考にしている。家族については、来訪時に個別に時間を設け話を聞いたり、相談を受けている。個々の要望があるが、特に運営に関する意見はない。家族会を設けることについては課題としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	① 定例会時に必要な運営状況などを説明している。職員からの意見も反映している	定例会議を通じて、必要に応じて事業所の管理運営について説明、報告し、質問等も受けている。職員から意見を言いやすいようこちらからも個々に声をかけ意見を促している。日々の業務の中でも話を聞くよう心がけ、相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①できている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①内外の研修に積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①あまりできていない ②地域密着型サービス会議の開催などにはなるべく参加するようにしている		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	① している。②入居後3か月間は信頼関係を気付くための機関と設定し、受容を中心としたケアを行っている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	① 実施している。②家族への利用者の状態の報告などはまめに行っている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	① 実施している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	① 十分とは言えないが利用者の落ち着いて分危機でできていると判断している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①ケースバイケース ②家族の利用者への思いによって、家族と良好な関係が気づける場合とそうでない場合がある		
20	(11)○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	① できている ②ただし、なじみの場所に行くなどは利用者の機能の低下などにより以前よりは回数が減ってきている	利用者の生活歴や習慣、好みから把握し、活かすよう努めている。その人にとっての馴染みのお寺や生まれ育った所などをドライブしたり、近くに行ってみることもある。たまにはあるが、近所の人が会いに来てくれることもあり、時には職員が声かけすることもある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①努力している ②日中は皆さん一緒にデイルームで過ごしてもらい、グループで会話するときは話を振ったりして交流を深められるように配慮している		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	① あまりできていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①している ②本人の希望などが分かりにくい利用者が多いがカンファレンスなどを通して把握するよう努めている	発語できないできないに関わらず、利用者から話を聞いたり、選択してもらうことで意向を確認している。これまでの会話や表情から汲み取ったり、生活歴から推し量っている。その都度情報は、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	① している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	① 努力しているが家族と話し合いながら計画作成する機会は少なくなっている(入所が長くなると現在の利用者の状況が見えづらくなってきているため)	担当職員が中心となり利用者個々のカンファレンスを開催、現状を把握し、それを基にケアマネが毎月モニタリングを行う。ケアマネは、更新時に担当者会議を開催し、家族の意向を踏まえ介護計画を作成、担当職員は、その計画を基に個別の支援計画を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	① できている ②個別ケアプログラムの作成やカンファレンス、定例会を活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	① できている ②個々の利用者のニーズに合わせた介護の実施(外出。美容院の利用。喫茶店の利用など)		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	① 少しはできている ②利用者の高齢化に伴い以前ほど地域資源を利用できる機会が少なくなっている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	① 十分できている	家族及び本人が希望するかかりつけ医への受診は基本家族対応で行っている。看護師は、利用者とかかりつけ医との関わりがスムーズに行われるよう、服薬管理や身体状況を把握、記録している。それを元に職員間で共有することで、利用者のより適切な受診が可能になり、安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	① できている ②看護師が非常勤で勤務しているため		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	① できている	職員が、日々徹底した居住空間の消毒と利用者及び職員の手洗い等の管理を行い、インフルエンザやノロウイルス等の感染症による入院がなかった。入院があった場合は、事業所の看護師と医療関係者とが密に連携を図り、退院後の事業所での受け入れについてもスムーズに行われている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	① できている ②延命に関する家族の意向など書面で確認	事業者看護師による「ターミナルケアの実際」という事業所内研修を行い、職員間で終末期の状況を学ぶ機会を設けている。なかなか事業所に面会に来ることが難しい家族には、利用者の現状、異変等、細かな状況もその都度書面で送付し、家族と共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	① できている ②しかし、職員の中には対応に不安を抱えている人が多い		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	① できている ②近くのホテルと契約し緊急一時避難場所として確保しているなど	災害時、近くのホテルが3部屋を事業所の避難場所として提供してくれることになり、利用者、家族の大きな安心に繋がっている。また、夜間想定避難訓練では、近隣住民の参加協力により、10分程度で避難が完了できたことを活かし、今後も継続して協力体制を築いていく考えである。	

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	① できている	利用者の尊厳、プライバシーの確保については、事業所の理念、日々の業務の中で周知している。職員の中には、無意識に尊厳を損なう言葉掛けや支援をしてしまう場合もあり、気づいた時はその都度注意したり、自己評価の際にも改善に繋げるよう働きかけている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①努力している ②利用者の希望がなかなか伝わりにくいことがある		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	① 利用者のレベルによってできている人とできない人がいる		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	① ばらつきがある ②利用者の意思が確認できる場合はできるがそうでない場合はややできていない		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	① できている	調理担当職員が、その日の材料で美味しい料理を手作りしている。日曜日は、利用者が味噌汁とご飯を作り、当番としての役割を担っている。近隣ホテルのレストランへ行った際、ホテル側の了解でその場で職員がミキサー食を作り、全員参加で楽しむことができた。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	① できている ②嚥下ができない人にはミキサー食やゼリー食の購入。緑茶が飲めない人には麦者など配慮している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	① 毎食後できている		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①できている	高齢化により、一人で排泄が出来る人は少数で、他は、一部及び全介助が必要な状態である。職員の世話になりたくないという強い気持ちから、夜間も頻尿で熟睡できない利用者と何度も話し合い、夜間のみオムツを利用することで夜間の熟睡に繋がった事例があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	① スムージーを毎日飲んでもらう、ヤクルト、水分量など一人一人に合わせて予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①十分にはできていない ②夜間の入浴や、浴槽への入浴ができていない	利用者に、基本週2回の入浴を提供し、拒否がある人にも、声掛けを工夫して入ってもらっている。利用者の身体レベルの低下に伴い、浴槽がまだたげない人は、今のところシャワー浴のみの提供になっている。	今後、利用者の身体機能の低下により、シャワー浴の利用者も増えることが予測される。利用者の楽しみである入浴がより快適になるよう、介助の工夫または環境の整備等何だかの検討をしていただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	① できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	① できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	① できている ②利用者のリーダーをやってもらい挨拶してもらおう。日曜日に味噌汁を作ってもらおう		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	①個別対応で行っている。	地域性から冬季の積雪により、外出できる期間が限定されている。利用者の重度化により、全員で遠方への外出をすることは困難ではあるが、天気の良い日には、できるだ周辺を散策したり、近くの喫茶店等に個別で外出ができるよう支援している。	

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	① 利用者の身体や認知レベルに応じることができる人にはやっている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	① 電話御居室にひいておられる方は一人でそれ以外はできていない		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	① できている	建物に床暖房が敷き詰められているため、玄関に入った時点から暖かく、寒い時期でも心地よく過ごせる。木目調の床、家具、壁面がうまく調和されており、アットホームな雰囲気となっている。居間の両側の窓からは、広々とした自然豊かな景色が眺められ、季節感、開放感を味わうことができる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	① デイルームの構造上できないがなるべく、気の合う人たちといっしょにいられるような配慮はしている		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	① 限られたスペースの中でできている	それぞれの居室は、利用者の愛用の飾りや家具の配置で、利用者の個性が活かされている。居室内にある物入れの扉を外し、クローゼットとして開放的に利用している人もいて、居心地良く過ごせる工夫がなされていた。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	① できている ②居室にへのネーム、トイレのネームなど		